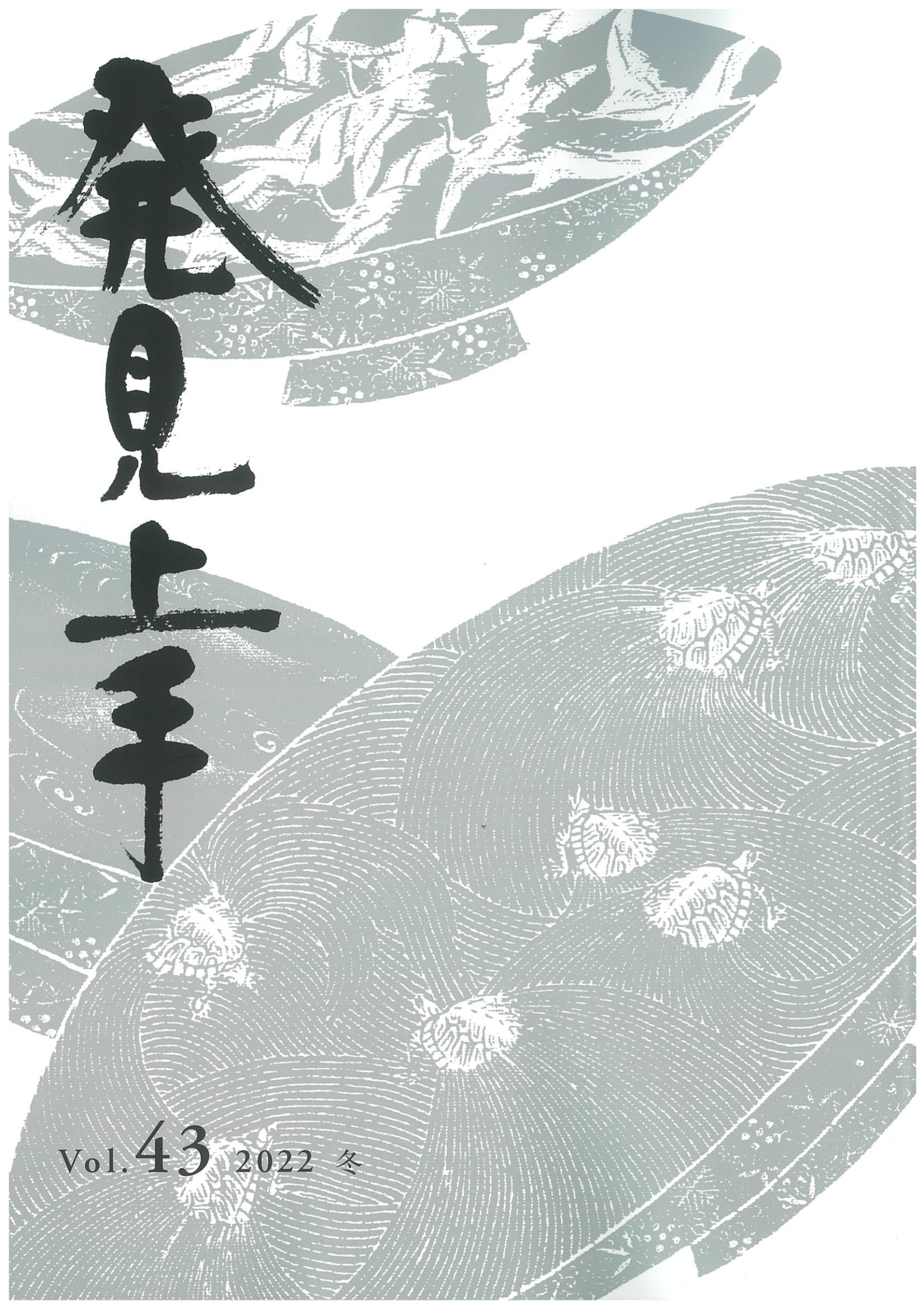
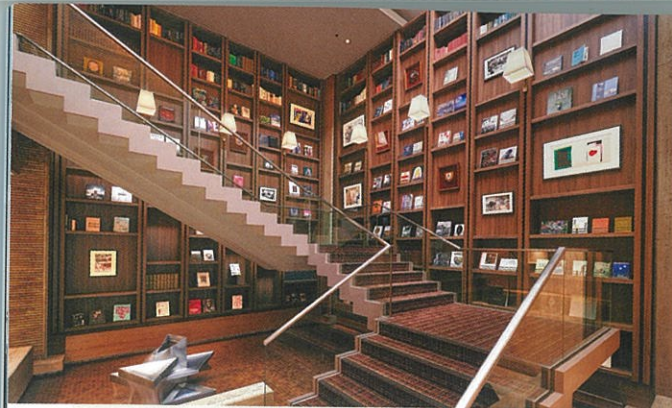




花見上手

Vol. 43 2022 冬



「芝パークホテル」中央大階段にある、過去・現在・未来を表現した約7m高の大書棚。一見の価値があります。



「BOOK HOTEL 神保町」客室は23平方m以上。ベッドやサイドテーブルにはお薦めの本が何冊も置かれています。

本棚が癒してくれる旅

発見コラム・暮らし

ブックホテル

本を読むことで充実の時間を過ごせる、本に親しむことで心のおちつきを得る、そんな宿泊施設「ブックホテル」がいくつも生まれています。3つの宿を紹介しましょう。

本の街といわれ、大手出版社も数多くあるのが、東京都千代田区の神保町。この地に2021年にオープンしたのが「BOOK HOTEL 神保町」です。

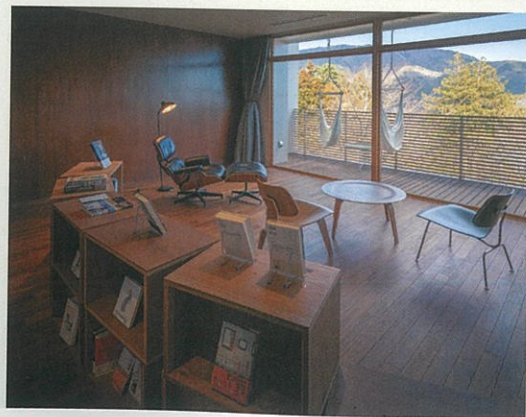
ここは「『わたしの本』を見つめるホテル」で、エントランス、各階の廊下、部屋のなかには、厳選された書籍が設置されています。客室は全部で32室あり、おちついたインテリアのなかで、出会った本を読むのもいいでしょう。蔵書数は約2000冊ですが、「本棚」は神保町の数多くの書店だと思えば、その充実ぶりがわかるといえます。

箱根に2018年にオープンした、18室のホテル「箱根本箱」は、「本のある暮らし」がテーマです。元々は出版社と書店の間で書籍の流通を担う取次（とりつぎ）の日販の保養所だった場所ですが、雑誌『自遊人』の編集チームが企画と運営を行ない、日販のブックディレクションチームが選書をして、「衣・食・住・遊・休・知」6ジャンル約1万2000冊の本が揃えられました。すべての本は宿泊客が購入することができます。つまりは「温泉に入れる書店」というわけです。全室テラスと露天風呂がつき、テレビはありません。なによりうれしいのは強羅温泉のナトリウム・塩化物泉と、硫黄泉。箱根ならではの温泉が楽しめます。

1948年創業の「芝パークホテル」は、東京タワーが営業を開始するより10年前からこの地にあった老舗です。2021年から2022年にかけて行なわれた大規模なリニューアルで、1500冊の厳選された書籍を持つライブラリーホテルに生まれ変わりました。書籍のディレクションを行なったのは、銀座蔦屋書店。「アート」「ファッション」「トラベル」「写真」「建築」「工芸」それぞれのテーマの本が、客室フロアごとに置かれています。本そのものが美術としての価値があるものなど、アート系の豪華本の充実ぶりは目を見張るものがあります。本は心を癒（い）してくれますし、ときには心を奮い立たせてくれます。ブックホテルが提供してくれるのは、安らかな心の旅なのかもしれません。



右ページ：強羅の風景を正面にした「箱根本箱」メインロビーは2階まで本が並べられています。下：箱根の外輪山を望む客室「マウンテンビューコーナースイット」。



芝パークホテル／東京都港区芝公園 1-5-10
電話：03-3433-4141

BOOK HOTEL 神保町／東京都千代田区神田神保町 2-5-13
電話：03-6380-8228（8時～22時）

箱根本箱／神奈川県足柄下郡箱根町強羅 1320-491
電話：0460-83-8025

本と宿がつくりだした新しい旅

Living Discovery